

## 文化・芸術

### 「静物」

1942年、油彩、カンバス  
15・2号×41・1号  
(広島市現代美術館寄託)

巖光 (1907～46年)

大川美術館では、企画展「茂田井武―パリ青春日記 ton parisを中心に」を開催中です。

童画家茂田井武(1908～56年)の年譜によれば、中学卒業後の1926(大正15)年に、美術学校受験の準備のため東京谷中(現在の台東区)にあった太平洋画会研究所に通ったとされています。

今回とりあげる巖光(本名石村日郎)は、茂田井と1歳違いですが、彼もまた同じ研究所に学び、ちょうど茂田井が通いはじめた年には、二科展に初入選していました。当時の研究所は、画学生たちのたまり場でもあったので、茂田井と巖光は、言葉をかかわすこともあったのではないかと想像します。

しかし、そのような同世代の二人ですが、その後の軌跡をふりかえると、なんとも対照的です。単純に運不運ということではなく、戦争という惨禍のなかを生き抜いた二つの才能の輝き。その輝きは、まったく異なっていますが、画家の運命の不思議さを感じます。(田中)

### 名画の扉

大川美術館のコレクションから

